

むせ・誤嚥を防ぐ！ 飲み込みがむずかしい人のための食事介助

介護保険市民オンブズマン機構大阪
〒530-0041 大阪府大阪市北区天神橋 3 丁目 9-27

助成事業の概要

1. 実施目的：施設で暮らす入居者の要介護度が高くなる中、飲み込みが難しい入居者も増加し、介護職員の食事介助時の負担も大きくなっている。研修では「飲み込みが難しい人」のための食事介助をテーマに、(1) 嚥下の仕組み、(2) 食べやすさの工夫と姿勢への配慮、誤嚥を防ぐ食事介助の方法、(3) 口腔ケアの大切さ、について講義を行うことで、嚥下についての理解を深め、介護者の実践力を培う。

2. 時期：2021 年 4 月～ 12 月

3. 内容：

(1) 職員研修実行委員会の開催：講義のタイトル、内容、講師選定等について協議。開催後の振り返り

(2) 研修の開催 (2021 年 9 月 7 日)：講義「“食べる楽しみ”に寄り添う食事支援 ～利用者の生きる力につなげるために～」(講師：平尾由香子・済生会中津病院摂食嚥下障害看護認定看護師)、会場：ドーンセンター大会議室 (オンラインでライブ配信も)

(3) 講義録画の配信：講義録画を編集して配信することにより、受講施設の受講者の復習及び参加できなかった職員に学びの機会を提供

事業の成果

(1) 摂食嚥下障害看護に詳しい講師の講義を通して、嚥下の仕組みから適切な食事介助や口腔ケアまで、短時間で幅広い知識を得ることができた。

・イラストやビデオの活用で、「口から食べることの大切さ」や「摂食嚥下障害による二次被害」、座位姿勢が取りにくい人に対する「頸部や体幹の安定方法」、食べ物を認識できるようテーブルや視線の高さ調整をすることの重要性、口腔ケアの大切さやスポンジブラシを使った口腔ケアの実技など、介護現場ですぐに応用できるポイントを学ぶことができた。

・講義録画を配信することによって、受講した介護職員の復習や確認に役立てることができた。また同じ施設の他の職員に視聴してもらうことによって学びの機会を広げることができた。

(2) 受講者の満足度は高く、全員が「参考になることがあった」と回答

・受講者のアンケート結果では、研修全体の評価として「よかった」「大変良かった」が 89.4% と約 9 割を占めた。また、全員が「参考になることがあった」と回答。「来年、同じ研修があれば同僚や知人に勧めたいか」との質問にも、全員が「勧めたい」と答えた。とくに、歯磨きのできない人に対するスポンジブラシを使った実技が好評で、「スポンジブラシの使用はあまりしていなかったが、今後取り入れていきたい」や「口腔ケアの大切さが分かった」といった声も複数寄せられた。

(3) 会場参加とオンライン参加のハイブリッド型研修を実施し、感染状況にも臨機応変に対応

・コロナ禍により昨年度から取り組み始めた Zoom による研修を今年度はさらに一歩進め、会場とオンラインの同時開催で研修を実施した。デルタ株蔓延による第 5 波の中での開催であり、

病院勤務の講師も感染防止のためオンラインでの講義であった。数か月先の状況が見えない中では、このように複数の対応方法を用意しておくことが有効であることを実感した。

■ 成果の広報、公表

(1) 摂食嚥下障害看護に詳しい講師の講義を通して、「嚥下の仕組み」から「適切な食事介助のしかた」や「口腔ケア」まで、現場ですぐに活用できる幅広い知識を短時間で得ることができた。

(2) 講義録画を配信することによって、受講した介護職員の復習に役立てることができた。また同じ施設の他の職員に視聴してもらうことによって学びの機会を広げることができた。

(3) 受講者の満足度は高く、アンケート結果では、研修全体の評価として「よかった」「大変良かった」が 89.4%と約 9 割を占めた。また、全員が「参考になることがあった」と回答。とくに、歯磨きのできない人に対するスポンジブラシを使った実技が好評だった。

(4) 会場参加とオンライン参加によるハイブリッド型研修を実施。デルタ株蔓延で第 5 波が続く厳しい感染状況の中ではあったが、受講者や病院勤務のため会場へ出向くことができない講師のニーズに対応し、円滑に研修を開催することができた。

■ 今後の展開

(1) 飲み込みが難しい人のための食事介助は、介護現場が抱える重要なテーマであるため、来年度は編集したビデオをより多くの施設職員が視聴できるように広報に努めていきたい。

一般の市民にとっても誤嚥予防と口腔ケアは重要なテーマとなっているため、歯科医とも連携し一般向けの勉強会も実施していく。

(2) 今年度の研修ではオンライン研修の難しさも実感した。安定した通信環境の確保を考え、主催者側は万全の態勢で臨んだが、講師側の通信環境が悪く、音声が途切れたり、映像が固まったりする場面が多々あった。事前に接続テストをしていたが、事情により講師側がテスト時とは異なる環境で臨んだことが原因である。ビデオ編集でかなり修正してもらったが、初回の上りは十分でなかったため再編集を依頼する結果になった。こうした点を踏まえ、講師には後日録画配信を予定していることも含め、「接続テストには本番と同じ環境で臨んでほしい」「通信環境の確保に留意してほしい」ということも、きちんと伝えておく必要があることを痛感。教訓として今後に活かしていきたい。